

キャラクター名 狩夜真琴 (かりやまこと)	プレイヤー名
--------------------------	--------

シンドローム	キュマイラ ハヌマーン	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	刑事
オプション		年齢	24	性別	女
覚醒	感染	衝動	嫌悪	初期侵食率	29 %
出自	結社の一員	経験	UGNへの忠誠	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	4	1	0			5	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
悪を絶つ牙						
(~59)	白兵	10r+3		19		
(~79)	白兵	11r+3				
(~99)	白兵	12r+3				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: UGN幹部					
コネ: 警察官					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費	
超侵蝕 (ディーブI0-ジョン)	P	N			
コードウェル博士	P 尊敬	N 脅威			
百瀬陸也	P 慕情	N 疎外感			
シナリオ: 永見孝三	P 遺志	N 悔悟			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	6	残り財産P:	4		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
完全獣化	3	6	マイナ	至近	自身	-	-	
効果:	【肉体】の能力値を使用した判定のダイスを+[LV+2]個							
破壊の爪	1	3	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果:	素手データ変更 攻撃力+[LV+8]							
ハンティングスタイル	1	1	マイナ	至近	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動 離脱可 封鎖の影響を受けない							
コンソレイト:キュマイラ	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果:	C値-LV							
獣の力	5	2	Xジャー	武器	単体	白兵	-	
効果:	白兵 攻撃力+[LV*2]							
獅子奮迅	1	4	Xジャー	武器	範囲選択	白兵	-	
効果:	範囲選択に							
至上の毛並み	1	-	常時	至近	自身	-	-	
効果:	毛並みがつつや							
軽功	1	-	常時	至近	自身	-	-	
効果:	とても身軽でビル壁面や水面も走れる							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

日本支部所属のエージェント。狼女。獣化した際はつつやの毛並みの2mほどもある白い狼になる。

厳格な父と優しい母のもと生まれ、何不自由なく育てられる。高校生の時ある事件に巻き込まれ、その際キュマイラである父の獣化を目撃したことで、自身の中にあるオーヴァードとしての力に目覚めた。その事件により両親と共にUGNに所属していることを知り、以降彼女もUGNの組織の一員となり今では前線で活躍するエージェントとなっている。

規律・規範を重んじる性格で、曲がったことが大嫌い。UGNが正義であると信じ、世界の安寧を崩すFHを憎んでいる。世の中にオーヴァードの存在を知られず、平和を守っていくことこそが力に目覚めた自分の使命であると感じて疑わない。……という信念を持っていたが、<World End Juvenile>の一件を経て、本当の正義とは何なのか考えるようになる。自分にも周りにも厳しいため、気難しいとみられることもしばしば。一方で、人間ではなくってしまった自身に対して心の底で嫌悪感をいだくこともあり、それを打ち消すべくエージェントとしての仕事に全力で取り組んでいる。

私生活では刑事部捜査一課に所属している。直属の上司で穏やかな性格の百瀬に淡い恋心を抱いているが、オーヴァードであること、そしてそれを隠していることで罪悪感を感じ、何も行動を起こせずにいる。彼の存在は、この人の住む世界を守りたいという思いを確かにする原動力であるとともに、自分はもうそちら側ではないのだという悲しみやある種の劣等感を引き起こすものとなっている。

主に“噛みつく”攻撃をとることが多く、肉が嫌いになった。普段は魚と野菜メイン。料理はできるが、時間が勿体ないという理由で簡単なものしか作らない。